

I 研究の概要

1. 研究主題

「すべての生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの工夫」

～自他を尊重し、共に学び合う活動を通して～

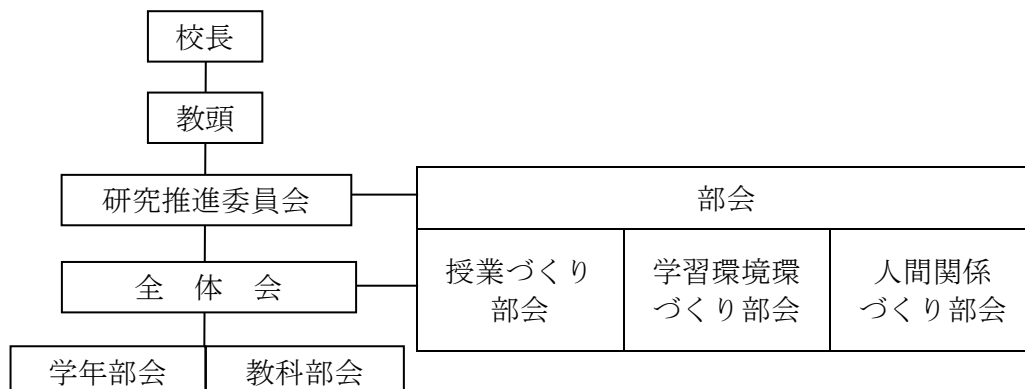
2. 主題設定の理由

科学技術が発展し、グローバル化がさらに進む現代社会の中で、私たちを取り巻く社会環境は急速に変化している。変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、確かな学力、豊かな心、健やかな体といった「生きる力」を育むことが求められている。そのため、生徒が自ら学び、考え、行動すること、他者と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を見極め、その情報をもとに、再構成するなどして新たな価値につなげることなどが重要と考えられる。

昨年度から、「より良い人間関係づくりの構築」と「学力の向上」を図るために、他者との豊かな関わりの中で学び合い、高め合う学習活動の在り方についての研究に取り組んでいる。学び合いを取り入れた授業実践を始めたり、『学び合い』についての研修を行ったりして、理解を進めた。「学び合い」活動を取り入れた授業展開について、全職員で考えることができたことや、生徒たちが意欲的に授業に取り組む姿が見られたことなど、「学び合い」の取組の効果を感じることができた。課題としては、「学び合い」活動を充実させるための学習環境の整備や授業規律の徹底、各教科学び合いを取り入れた授業の検討、多くの他者と学び合うための「人間関係作り」の実践などが挙げられる。

今年度も、「より良い人間関係づくりの構築」と「学力の向上」を図るために、引き続き「学び合い」活動を取り入れた授業の研究に取り組む。学習環境を整備し、教科の特性や単元に応じた「学び合い」活動を取り入れた授業を継続していくことで、基礎・基本の定着を図り、大和中学校に合った「学び合い」授業の検討、実践を目指したい。また、学力向上を図るために、効果的な ICT の利活用も検討し、授業に取り入れていきたい。「学び合い」活動を効果的に取り入れた授業づくりの実践を進めることで、すべての生徒が主体的に学ぶ姿の実現を目指し、この主題を設定した。

3. 校内研修の組織図



4. めざす生徒の姿

- (1) 各教科の特性に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ生徒
- (2) 『学び合い』を通して、自分の考えを広げ深めていく生徒
- (3) 自分の考えを伝えたり、相手の考えに共感したりすることができる生徒
- (4) 互いを認め合い、進んで人と関わっていかうとする生徒

5. 研究の内容と方法

- (1) 教科の特性を踏まえながら、『学び合い』のルールと方法を決め、実践する。
- (2) 互いに授業を参観する。
- (3) 各調査の結果や授業での成果物、アンケートを通して、生徒の変容を見る。

○授業づくりについて

- (1) 集団全員が目標を達成することをめざす課題づくりと見通しをもたせる授業
 - ①学習課題と学習内容を示し、単元を通して身につける力と見通しをもたせる工夫をする。
 - ②対話的な活動の時間を確保し、生徒同士が交流し、考えを発展させるように促す。
 - ③最初の語りと最後のリフレクションで全員達成目標を浸透させる。
 - ④全ての生徒が何をしたらいいかわかるようにワークシートを工夫をする。
- (2) 生徒が方法を選択できる環境を保证する授業
 - ①どのように学習を展開するか、誰とどのように交流するか、何と交流するか、もしくは交流しないのかについて考え、決定していく裁量を生徒に与える。
 - ②『学び合い』を促す言葉かけと全体、チーム、個人の変化を観察する。
→教師は、教科書や他の分かる生徒と繋ぎ、また、生徒に戻す。
 - ③学習課題に対するリフレクションと教師の語りを行い、推奨したいことや次時に期待することを伝える。

6. 各部会の主な活動

本研究では、生徒が「人と関わる力」を高め、「学びに向かう姿勢」を身につけることをねらいとして、『学び合い』の考え方を取り入れた授業実践を全員で行う。その研究の柱として以下の3部会がそれぞれの役割を担う。

○授業づくり部

- ①「学び合い」活動を取り入れた指導方法の工夫改善
 - ・教科の特性を踏まえつつ、「学び合い」のルールや方法を検討する。
 - ・大和中学校における「学び合い」の授業を検討する。
 - ・効果的なICTの利活用を提案し、授業に取り入れる。
- ②各教科での授業実践
 - ・「課題設定」「見取り」「振り返り」を意識した授業を実践する。
 - ・授業における教師の手立てについて協議する。
 - ・「学び合い」の評価について協議する。
- ③授業の相互参観や「学び合い」の実践記録の集約

○学習環境づくり部

- ①生徒の主体的な学びを支援する教室や校舎内の環境づくり
→学び合いのルール の 掲示や、その他掲示物の調整
- ②授業の成果及び生徒の変容を可視化するための手だての構築
→電子黒板やネームプレートの利用
- ③生徒の変容を見るためのアンケート等の実施と分析
- ④ICT利活用方法の提案

○人間関係づくり部

- ①体験的な活動を中心とした学級活動等の計画立案と実践
 - ・体験的な活動を中心に出番・役割・承認のサイクルをつくり、自己肯定感や自己有用感を高める。
 - ・よりよい人間関係作りの構築のために、エンカウンターを取り入れた学級活動の提案を行う。
- ②生活上の諸問題の解決や望ましい人間関係の育成にかかる授業づくり
 - ・「Q-U」アンケートの分析をもとに、人間関係づくり(仲間づくり)教材の学級や学年での提案・実践を行う。
 - ・特別支援生徒と困り感をもつ生徒に関わる取組

7. 年間計画

実 施 日	実 施 内 容	協 議 内 容
4 月 5 日	第 1 回校内研	・昨年度の研究の成果と課題・研究主題
5 月 2 2 日	第 2 回校内研	・研究主題・部会・各部会でグループ研（年間計画） ・役割分担
6 月 1 9 日	第 3 回校内研	・各部会：取組の確認
7 月 1 0 日	第 4 回校内研	・授業研究会 1
8 月 2 9 日	第 5 回校内研	・校内研修会において特別支援教育講和
9 月 2 4 日	第 6 回校内研	・各部会：取組の確認 ・「Q-U」アンケート実施
1 0 月 9 日	第 7 回校内研	・各部会：取組の反省、実施確認
1 1 月 2 7 日	第 8 回校内研	・授業研究会 2
1 2 月 1 8 日	第 9 回校内研	・「Q-U」アンケート分析（比較分析）
1 月 1 5 日	第 10 回校内研	・各部会で研究まとめ
2 月 2 6 日	第 11 回校内研	・全体会報告(各部会より)
3 月 2 5 日	研究推進委員	・次年度計画

8. 研究の実際

「すべての生徒が主体的に学び合う授業づくりの工夫」を研究主題とし、「よりよい人間関係作り」と「学力向上」の二つの視点から研究を進めた。「すべての生徒が」「主体的に」学ぶための手法として、「学び合い」活動を取り入れた授業の実践に取り組んだ。

(1) 教科の特性を踏まえながら、「学び合い」活動を取り入れた授業を実践する。

「学び合い」を取り入れた授業実践を行うために、まず、全職員の共通理解を目的とした『学び合い』ガイダンスを行った。『学び合い』の考え方の基本となる「学校観」「子ども観」「教師観」についてや、『学び合い』を実践することで期待される効果、授業の実践について理解した。次に、教科部会で「学び合い」活動を取り入れた授業や単元、「学び合い」の方法を検討し、実践することとした。

(2) 互いに授業を参観する。

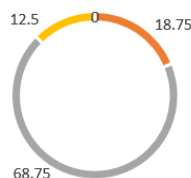
2本の研究授業を実施した。授業の様子を撮影し、後日、映像を見て研究協議を行った。研究協議の中でさまざまな意見を出し合うことで、「学び合い」活動の効果や課題を考えることができた。さらに、各部会の研究協議を校内研の全体会で共有することで、参観できなかった授業についても共有することができた。また、研究授業以外に、『学び合い』の授業を実践している先生方の授業を見に行ける期間を設けた。実際の授業の様子を参観することで、授業の実際を理解することができた。

(3) 人間関係づくりのためのエンカウターの提案と実践

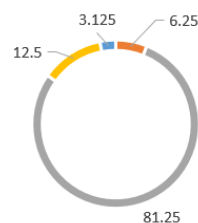
今年度は、「人間関係づくり」部会で、全員が実践できる「エンカウター」を提案した。普通学級や特別支援学級で多くの授業実践を行うことができた。

II 成果と課題

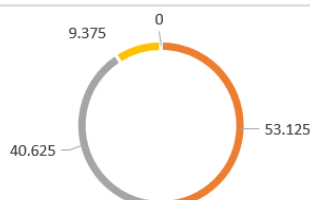
1 職員アンケート



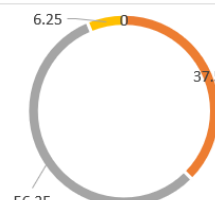
- ① 生徒が「学び合う」活動に取り組める授業づくりができましたか
- 1 あてはまる
 - 2 ややあてはまる
 - 3 ややあてはまらない
 - 4 あてはまらない



- ② 生徒が学びに向かうような課題設定の工夫ができましたか
- 1 あてはまる
 - 2 ややあてはまる
 - 3 ややあてはまらない
 - 4 あてはまらない



- ③ 校内授業研究会は今後の自分の授業作りに役立つと思いますか。
- 1 そう思う
 - 2 ややそう思う
 - 3 ややそう思わない
 - 4 思わない



- ④ 「学び合う」活動を取り入れた授業は、生徒の学習意欲や取組の向上に効果があると思いますか。
- 1 そう思う
 - 2 ややそう思う
 - 3 ややそう思わない
 - 4 思わない

2 校内研についての感想・意見（部会のありかた、研究授業のありかた、校内研究で取り組んでみたいこと、改善点、その他など）

学び合いは学校の状況的に厳しかったです。学習規律や生徒指導など今の状況にあった研究でもいいのでは無いかと思いました。
学年や時期に応じてエンカウンター的活動を取り組んだみたいと思った。
授業の作り方や、生徒、保護者との関わり方などいろんな場面での対応を校内研究で学べたらと思った
QUを活用して、クラスの変容を可視化するとより説得力が増すなと思いました。
学び合いの課題設定や時間設定がむずかしい、学び合いのために人間関係づくりや学習規律の徹底が必要
学習タブレットを用いた授業展開、自宅学習の充実
研究授業をしていただいた先生、お疲れ様でした。参観したかったです。学び合いを授業の中で取り入れることは必要だと思いますが、学習環境作り部会からも出たように、どのタイミングでどのくらいの割合で行えばいいのか悩むところです。来年度はICT利活用の推進のために、いろんな教育用ソフトを使った研修会があればと思います。他地区から来た教員にとって、このパソコンを使いこなすのにとても苦労しました。
支援学級でも実施できるエンカウンターを知ることができた。コミュニケーションが苦手な生徒が多いので、学年や時期を考え、実施したいと思う。
部会の活動を活性化させる工夫が必要。部会長の負担が大きかったと思う。
教科で部会で考えたことを伝え合う時間があるべき。
もし可能であれば、「学び合い」の授業をされているスーパーティーチャーを本校に呼んでいただき、実際の授業を見る機会をつくってもらえたらと思います。
難しいとは思いますが、できたら授業参観ができたかと思いました。もしくは動画をフォルダに置いておいて各自見てから研究授業の教義にはいるなどでもよかったかと思いました。
普段、授業の研究をする時間が少なくなりがちなので、とても勉強になります。
学び合いを取り入れてみましたが、これでいいのかな...と思いながらでした。色々な教科、先生方の授業を見て勉強したいです。
教科部会と学年部会に分けて、学び合いの授業の共有等ができる仕組み作りが必要かと思いました
特になし
お疲れ様です。先生方の取り組みに感動してます。良いものは学び取り入れながら授業改善に取り組んでいきたいです。研究授業をして下さった先生方ありがとうございます。研究授業はできるならば見にいけるように時間割など調整していただけるとありがたいです。

ありがとうございました。
特にありません。
お疲れ様でした。意見として、いくつか研究授業をして、交流をしてみてもいいかなと思います。
学び合いを取り入れた授業を積極的にやって行きたいと思います
各教科ごとにワークシートなどをデータで3学年分入れておくフォルダなどあれば良いと思いました。
校内研究会お疲れ様でした。
職員のレベルアップはもちろん、生徒の変容がみられることが大切だと思う。職員全体や学校全体で共通して取り組んでいきたい。
校内研で「学び合い」を取り入れた授業を提案されたが、年度の初めにどの授業でも「学び合い」のルールやなぜ「学び合い」をするのかを語る必要があるのではないかと思います。学年によっては「学び合い」＝「友達と話す時間」という認識の生徒もいるようなので、本来の「学び合い」が成立しないことも起きると思います。

3 令和6年度校内研究のまとめ

今年度も研究主題を「全ての生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの工夫」として昨年度に引き続き取り組んできた。今年度の研究を経て、得られた成果と今後の展望は次の通りである。

(1) 研究の成果

- ①年度のはじめに、『学び合い』ガイダンスを行うことで、全職員が共通理解して、授業実践に臨むことができた。
- ②教科部会で「学び合い」活動を取り入れた授業や単元、「学び合い」の方法を検討し、実践することができた。
- ③授業研究会で、「学び合い」を取り入れた授業について参観し、授業展開や子どもの取組などについて全職員で考えることで、業実践に活かすことができた。
- ④研究授業以外に、『学び合い』の授業を実践している先生方の授業を見に行ける期間を設け、実際の授業の様子を参観する機会を設け、授業実践に活かすことができた。
- ⑤電子黒板や名前カードを利用して「学び合い」の進捗状況を可視化したことで、生徒の課題への取り組みの向上につなげることができた。
- ⑥人間関係づくりに有効なエンカウンターを提案し、実践することができた。

(2) 今後の展望

- ①教員も生徒も「学び合い」について肯定的な意見が多かったので、今後も教科の特性や単元に応じた「学び合い」活動を取り入れた授業を行うことで、定着を図る。
 - ②年度当初に、全職員と生徒へのガイダンスを行うことで、「学び合い」活動の共通理解を図る。
 - ③「学び合い」活動の基盤となる「人間関係づくり」に重点を置いた活動を実践する。
 - ④「学び合い」活動の中で効果的なICTの利活用を検討する。
 - ⑤アンケートなどを利用して、生徒の変容や学力の向上を測る。
 - ⑥学習環境の整備や授業規律の徹底、開発的生徒指導の取組を行っていく。
- 今年度の研究の見通しや修正を図りながら、来年度の研究につなげていきたいと考える。

○本時の狙いが達成されるような学び合い活動を取り入れた授業展開だったか。

(「学習課題の提示」「学び合い活動」「振り返り」「課題設定」など)

- ・ステージ4のように、考えが分かれる問題があると、ただの答え合わせだけでとどまることなく、学び合い、話し合いの幅が広がると思いました。
- ・プリントの課題はステージ分けし、それぞれ分かってほしいことが明確な構成となっている。
- ・実物をつかったの説明が分かりやすくてよかった。
- ・先生の意図に応じて生徒が動いていた。
- ・黒板にめあて、見通しなどが書いてあって分かりやすい。
- ・学び合いが、個やグループなど生徒の実態に応じて行われているのがよかった。
- ・チェックシートの習慣化ができています。
- ・余計な言葉かけがなかった。
- ・自分（個）のペースでやれるのはよいこと
- ・個人の活動と他とかかわってもよい活動がきちんと教師が指示したルールのもとで行われていた。(学び合いに慣れてすぐ人のところに動いてしまうことがあるため)
- ・学び合いが始まって最初は動きが少なかったが、後半になるにつれて動きがおおくなってきたのでよかった。
- ・電子黒板の学び合いチェックは状況が把握しやすい。学習の進度が分かりやすい。
- ・電子黒板で、生徒の色を変えられるのは、できていない生徒の手助けをしやすいので良い。

- ・終わることができていない子への関わりについては課題
- ・座席が一斉の列のため、移動が困難でもある？(スペースが足りない)
- ・まだクリアをしていない生徒がコンプレックスを感じないか。「あの生徒はいつもクリアできていないな」「あの生徒がクリアしてなかったから評価がBになった。」(こういう気持ちにさせないために学級経営で下地をきちんと作ることが大切)
- ・実物を自由に使わせると深い学びになったかもしれない。(生徒指導上の問題もあるが)
- ・やはり何となく同性同士でしか話をしていない。(仲がいい人同士の関わり)
- ・学び合いで出た意見や分かったこと等の共有の場、全体のまとめがあってもよかったかもしれない。

○子供たちが学び合い活動を通して、課題を達成しようとする姿がみられたか。

(集団として学べていたか)

- ・振り返り学習ができていた。
- ・子供たちの視点が落ちている子が多く、学習にむかえている子が多い
- ・“終わりました”の電子黒板タッチは初めて見た。(分かりやすくてよい)
- ・はじめから友達のところに行こうとする生徒もいるが、ほとんどはまずは自分で考えて答えを出そうとしている。(このやり方は自分的には良いと思います。)
- ・番所が工夫しており、違う意見の可視化などがあり、学び合いをするときに生徒の参考材料になったと感じました。

- ・電子黒板を見て、まだ達成していない生徒のところに行っているのか。
- ・1つの椅子に2人で座っている

【その他】

- ・丸写しする生徒はいないのか。
- ・一番早く終わってしまったグループはすることがあるのか。
- ・特定(仲の良い子)にかたよってしまう。関われない子に対してどう接していくのか指導者の声掛けが重要
- ・学び合いができている子はいいが、答え(考え)を教え合うだけになっていないか。深い学びにつながっているのか映像からは分からない。
- ・①早く終わって生徒⇒教えることで深まる ②終わらなかった生徒への指導をどうするのか⇒もっと早く聞く、分からないという
- ・学び合いの様子はどの生徒がどのくらいでできているかが分からないと有効性の判断が難しいと思いました。
- ・電子黒板を教室で使う際の教師の立ち位置

学習環境づくり部会のまとめ

1 アンケートの分析

5月に行った1回目のアンケートでは、55項目の質問に回答するものとしており、県内8校で約1500人のデータが集まった。大和中でも353人が回答し、特徴的なものを下に挙げる。

質問内容	大和中	8校平均
5・授業のルールやマナーは必要なことだと思う。	4.3	4.5
30・復習することは、授業の内容を理解することにつながると思う。	4.3	4.4
6・授業の中で分からないことがあっても、教えてくれるクラスメートがいる。	4.2	4.4
26・授業はクラスみんなが分かり、理解することが大切だと思う。	4.2	4.4
4・発表をする場面では、活動をやめて話を聞くのは大切なことだと思う。	4.2	4.4
17・生徒同士で学び合うことで力がつくと思う。	4.1	4.3
22・授業中クラスメートに教えてもらえるのは嬉しい。	4.1	4.3
3・発言、発表をしている人の方を向いて話を聞くことは大切なことだと思う。	4.1	4.3

どの質問項目も8校平均と比べると、0.1～0.2ポイントは低いものの極端に劣っているとはいえず、大和中の生徒も「学び合い」の素地は十分に身についているといえる。「6・授業の中で分からないことがあっても、教えてくれるクラスメートがいる。」や「26・授業はクラスみんなが分かり、理解することが大切だと思う。」、「17・生徒同士で学び合うことで力がつくと思う。」、「22・授業中クラスメートに教えてもらえるのは嬉しい。」など学び合いに必要な考え方や態度が生徒にも浸透していると考えられる。

質問内容	大和中	8校平均
27・授業は先生が主体となって教えるべきだと思う。	3.2	3.3

27番の質問についても8校平均と比べてほぼ同じ割合であり、学び合いに関して生徒たちが否定的だとは見られない。

○来年度のアンケートについて

今年度のアンケート結果を踏まえ東与賀中学校で、統計学の観点から分析し有効的な質問を16項目に絞り、さらに、4つのカテゴリー(1～6「個別の学び、協働の学び」7～9「学びの見通し」10～12「学びの目的」13～16「学び方」)に分類してもらっているので、それを使って学校や学年の全体のアンケートだけでなく、教師個人の授業アンケートとしても使用できるようになっている。

中学生用 学び合い授業評価尺度

() 年 () 組 () 番 性別 (男 ・ 女) 名前 ()

この質問紙は、授業の中で学び合いがどのくらい出来ているのかを確認するとともに、授業後の振り返りを促し、次の授業に役立てることで、誰もがよりよい学び合いを目指すために行います。この調査は、あなたの成績とは全く関係がありませんので、すべての質問に答えてください。

※選択肢 (○印を付ける)

「とてもあてはまる」・・・5

「ややあてはまる」・・・4

「どちらでもない」・・・3

「あまりあてはまらない」・・・2

「まったくあてはまらない」・・・1

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問題や課題の解決に取り組んでいる。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ② 授業では、他人の意見や考えを自分の学習に生かしている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ 自分は失敗したとしてもその経験を次に生かしている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④ クラスみんなが分かることを目指して、学習を進めることができている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ 授業では、自分の興味に基づいて問や課題を立てて取り組んでいる。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ 「めあて」から、授業で身に付けたい内容が理解できる。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ 振り返りによって、自分がこの後に何を学習すればよいか考えることにつながっている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ 授業の最初に今日の授業の流れを理解している。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ 授業では、自分から積極的に学ぶことができている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩ 教科の先生たちが目指す「こんな力を身に付けてほしい」というゴールを理解している。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑪ 今日の授業のめあてを達成しようという目的意識をもって学習している。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑫ 先生の説明が延々と続くことはない。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑬ 授業では、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学んでいる。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑭ 教科によって学び合う人が異なる。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑮ 新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で計画を立てて学習を進めている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑯ 生徒同士で学び合う時間は30分以上設定されている。・・・ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

2 授業研究会について

11月25日に以下の指導案で数学の授業研究会を行った。

数学科学習指導案

日 時 令和6年11月25日(月)4校時
指導学級 3年4組 38名
指導場所 3年4組教室
指 導 者 田中 亮自

1 単元 関数 $y = ax^2$

2 単元について

(1) 教材観

第1学年で比例と反比例、第2学年で一次関数を学習している。その時に学習した、表・式・グラフについて考察したことをもとに、第3学年で出てくる関数について調べていく。身近な事象から比例・反比例や一次関数とは違う関数の存在に気づき、考察していくようにしたい。

(2) 生徒観

本学級は明るく元気な生徒が多い。受験を間近に控えたこの時期、学習の必要性を感じ、まじめに取り組む生徒が多い反面、集中できない生徒も一定数いる。数学に苦手意識を感じている生徒も多く、理解が遅い生徒に対しては個別の指導が必要である。

(3) 指導観

身近な事象を例にとるなど、意欲をより多く引き出せるような指導を心がけたい。数学に苦手意識を持つ生徒に対しても「できる」という成就感をより多く感じさせたい。また、授業の始めに前時の復習の時間を取ることで、教材のつながりを意識させながら授業を進めていきたい。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 関数$y = ax^2$について理解している。 - 関数$y = ax^2$を表・式・グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 - いろいろな事象の中に、関数関係があることを知る。	- 関数$y = ax^2$を用いて具体的な事象をとらえ、考察し、表現することができる。 - 関数$y = ax^2$として捉えられる2つの数量について、表・式・グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。	- 関数$y = ax^2$の必要性和意味を考えようとしている。 - 関数$y = ax^2$について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 関数$y = ax^2$を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

(2) 本時の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身のまわりには、2つの数量の間の関係を関数 $y = ax^2$ とみなして、問題を解決できる場面があることを理解している。	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y = ax^2$ で捉え、問題を解決することができる。	関数 $y = ax^2$ について学んだことを生活に生かそうとしている。

4 単元計画（全17時間）

単元を通した学習課題／表・式・グラフを相互に関連付けて、理解する。	
時	全員が達成を目指す学習内容目標
1～3	関数 $y = ax^2$ の意味を理解し、 $y = ax^2$ の式に表すことができる。
4～6	関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴を理解することができる。
7～11	関数 $y = ax^2$ の変化の特徴を理解し、変化の割合を求めることができる。
12～17	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y = ax^2$ とみなして、問題を解決することができる。

5 本時の過程

（1）本時の目標

具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y = ax^2$ とみなし、問題を解決することができる。

（2）本時の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身のまわりには、2つの数量の間の関係を関数 $y = ax^2$ とみなして、問題を解決できる場面があることを理解している。	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y = ax^2$ で捉え、問題を解決することができる。	関数 $y = ax^2$ について学んだことを生活に生かそうとしている。

③ 展開

	学習活動	教師の支援	評価とその方法
導入	1. 先日の交通安全教室で自動車による事故を思い出させる。	接触事故の際に、自動車が急ブレーキをかけて間に合ったかななどを思い出させる。	
	学習課題：自動車の時速と制動距離の関係を知り、問題を解決することができる。		
	2. 例題の文章を読み、問題の把握をする。	○Power Pointで問題を提示する。 ○制動距離について説明し、イメージを持たせる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワークシートを書く。 ・問題解決に向けて、他者と協力しながら学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	3. 例題を解く。	○問題文から、制動距離と速度の間の関係を読み取り、式に表すことを考えさせる。	（手立て） 問題が解けている生徒へ聞きに行くように促したり、解けている生徒への声掛けを行う。
展開	4. ☆（学び合い） 類題を解く。	○類題を解く前に、生徒に学び合いのルールを確認してから、解かせる。	【知識・技能】 2つの数量の間の関係を関数 $y = ax^2$ とみなして、問題を解決できる場面があることを理解している。
	5. 小テストを解く。	○黒板、プリントを見ながら解くように促す。	

			【思考・判断・表現】
			具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y = ax^2$ とみなして、問題を解決することができ
			る。
終末	4 振り返り	○身の回りにはいろいろな事象があり、数学的に見ることで解決することができるものがあることを語る。	

授業研究会の記録

(1) 授業者から本日の授業のポイント

- ・交通安全教室の経験から、制動距離を求めるという日常生活で身近な話題を出した。
- ・普段以上によく動いて学び合いをしてくれた。
- ・一斉指導に時間を多くとってしまい、学び合いの時間を十分に取れなかった。

(2) 協議① 本時のねらいが達成されるような学び合い活動を取り入れた授業展開だったか。

(「学習課題の提示」「学び合い活動」「振り返り」「声掛け」「課題設定など」)

- ・学び合いに参加しない生徒への手立て、寝ている生徒や声をかけられない生徒の生徒間同士の関係づくり
- ・一斉指導をしてからの学び合いで教えられる生徒がいる状態での学び合いとなり、学習が成立していたように思える。
- ・研究授業だったため生徒も頑張っていたが、普段から継続して学び合いを行うことは難しく思える。
- ・考え方の板書が黒板に残されていて、生徒にとって考えやすく参考になっていた。
- ・課題が実生活と結びついていてよかった。
- ・例題に入るまで25分かかっていて、少し長いような…
- ・最後に小テストをするのはよいと思った。しかし採点後のふりかえりはどうするのか？
- ・問題について：まず自分で解かないのか？わかっているところとわからないところを認識しないでもいいのか？

(3) 協議② 子どもたちが学び合い活動を通して、課題を達成しようとする姿が見られたか。

(集団として学べていたか)

- ・わからない生徒が集まってしまい、学習ができていたのか分からないところがある。
- ・わかる生徒が積極的に動いて教えに行く姿が多かった。
- ・授業者の声掛けにより、生徒が学び合いに行く場面があった。
- ・「わかったよ」という声が上がり理解しようとする姿勢が見られた。
- ・いつものメンバーに偏りがちな時にどう声をかけるのか？

(4)その他

- ・学び合いをすると授業が成立しないことがあるため、一斉授業の形を取り入れながら学び合いをすることが多くなっている。
- ・学習内容によっても授業形態や時間配分を工夫する必要がある。
- ・学び合いに対しての生徒の認識や、教科の特性(言語教科はインプットする事柄が多い)など一律には考えられないことが多い。

3 今年度の成果と課題

アンケートを分析することによって、大和中の生徒が学び合いの考え方を理解し、実践していく素地ができていることがわかった。しかし、安きに流される生徒も多くいる現状(課題解決よりもおしゃべり)では、なかなか難しいことも理解できる。課題を解決しみんなができるようになることが、みんな(教える側も教わる側も)の幸せに通じることを生徒に理解させていくことが必要だと思う。そのためには、毎時間の語りや課題を十分に理解させてから学び合いに入らないといけないし、そのための研究や研修が来年度は必要だと考える。

研究授業が実施できたのは大変よかった。生徒も教師たちが参観に来ると張り切って教えてくれるし、いつもより学び合いが活発になる。授業研究の場での意見交換で他教科の先生方と意見を交わすことで、それぞれの教科の特性がある中で、どれだけ折り合いをつけながら学び合いを実施しようとされているかがわかるし、全教科で同じ方法で一律に実施することの困難さもわかる。また、忙しい日常の授業の中でお互いの授業参観がどれだけできるのかは不透明であるが、都合を合わせてできるだけ実施していくことが大切だと思う。

当初から学習環境づくり部会の活動として、教室の掲示物や学び合いに必要な物品購入を考えていたが、部員の先生方との意見などの調整不足や予算の関係で実現できなかった。来年度は各教室に統一した掲示物を示し、生徒たちの意識を高めていきたい。

人間関係づくり部の取組

1 学び合い活動を充実させるための人間関係形成につながる活動の提案

佐賀県教育センターは、「SGE は、大きく 2 つの効果があるとされている。1 つ目は『あたたかな人間関係を作る』ことである。生徒の人間関係が援助的になり、いじめや不登校などの問題を防止して、学級の支持的風土づくりや受容的な雰囲気学の学級づくりに役立つ。2 つ目は『自己発見を促す』ことである。そこで、人間関係作り部会では、学び合い活動は生徒同士がコミュニケーションを図りながら学習を進めていくことに着目し、そこには円滑な人間関係が必要となると考え、人間関係形成につながる活動の研究を進めたいと考えた。また、特別支援学級のような少人数学級でも実施できる活動を視野に入れて研究を進めていきたいと考えた。

○サイコロトークング

通常学級での取組として、「サイコロトークング」を実施した。サイコロトークングとは、サイコロを転がし、止まったマス目を書いてあるお題について話す活動である。グループでの自己開示や他者理解を通して円滑な人間関係を築いていくことが目的として、マス目の話題も「今朝の朝ごはんのメニュー」や「休日の理想の過ごし方」など誰もが話しやすい内容を選ぶことで活動に取り組みやすいように工夫をした。生徒からは、「今まであまり話さなかった人とたくさん話せてよかった」という意見や、「サイコロを転がして、楽しみながら活動に取り組めたことがとてもよかった」という肯定的な意見が多く挙げられた。活動時間は 1 回あたり十五分程度のため、授業を始める前のアイスブレイクにも有効だと感じた。

特別支援学級（自・情）においても実施した。実施したタイミングは、1 人の生徒が不穏になった時である。学習活動のウォーミングアップと気持ちの切り替えを狙って提案したところ、前述の生徒も席に戻り、活動に参加することができた。担任を交えて 4 人で行ったが、実施後は気持ちを切り替え、学習活動にスムーズに移行することができた。



○とんこつラーメン

支援学級の取組として、「とんこつラーメン」を実施した。とんこつラーメンとは、30 枚程度のカードにそれぞれの情報を書いてあり、それらの情報を伝えあいながら課題を解決していく活動である。とんこつラーメンは、課題解決をする上でのコミュニケーションを通して、円滑な人間関係を築いていくことが目的である。生徒からは、「
」という意見や「
」という意見が上がり、円滑な人間関係を築くことに有効だと感じた。しかし、支援学級では言葉のみで情報を伝達し合うことに困難を感じる生徒もいたため、その生徒に関してはカードを見せてもよいという配慮などが必要だった。

2 活動の流れ

○ サイコロトークング

(1) 準備するもの

- ☐ 話題のワークシート
- ☐ サイコロ
- ☐ 消しゴム（自分のコマ）

(2) おすすめ方

- ① 4～6人グループで机を合わせて座る。
 - ② ワークシートを中心に置き、自分のコマをスタートに置かせる。
 - ③ サイコロを振って、止まったマスのお話について話す。
- ※ 1回あたり15分のため、50分で実施する場合はグループのメンバーを変える
- ④ 活動の感想を伝え合う（必要に応じて）

○ とんこつラーメン

(1) 準備するもの

- ☐ 筆記用具
- ☐ 情報カードを入れた封筒
- ☐ 座席を書きこむワークシート

(2) おすすめ方

- ① 4～6人グループで机を合わせて座る。
- ② ルールの確認
 - i) カードの情報を絶対に見せないこと。
 - ii) 人の話は最後まで聞くこと
- ③ 封筒から情報カードを取り出し、情報を見ないように数が均等になるように配る。
- ④ 情報のやり取りをしながら、座席をワークシートに書きこむ
- ⑤ 時間が来たら答え合わせをする。
- ⑥ うまくいった理由やうまくいかなかった理由を話し合う。

3 まとめ・展望

今回、「学び合い」を円滑に進めるための良好な人間関係を築くために使えるエンカウターの活動を提案した。通常学級と支援学級のどちらでも実施できるように15分程度の時間で活動ができることと、活動な内容が取り組みやすいものになることを重点目標として研究を行った。活動の成果として、どちらの学級でもコミュニケーションを図りながら活動を進めることができたことと生徒の実態に応じて活動を柔軟に変えることができることがあげられた。しかし、課題としては、「学び合い」を円滑に進めるために必要な良好な人間関係の変容を確認する手段が難しいということや、学年や時期に応じて取り組みやすいエンカウターの研究が必要だということがあげられた。

「学び合い」の活動において、生徒間のコミュニケーションは必須であり、課題について深く考えるためにも自分たちの意見を言い合える関係性の構築は重要である。その良好な人間関係を築くための手段の1つとしてエンカウターは有効であり、今後とも時期を見ながら取り組んでいけるようにしていきたい。